

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	専門演習Ⅰ		
担当者(Instructors)	尚 爾華	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

「健康管理のスペシャリストを目指す！」 将来は企業や自治体、家庭において健康管理のスペシャリストとしてのスキルを高め、その知識をわかりやすく説明できることを目指す。このゼミでは地域住民の健康に関する調査方法を学ぶ。実践的学習としては、健康管理の対象者を選定し、聞き取り調査した上で、パーソナル運動及び食事の指導を行う。その調査結果と指導の成果をレポートとしてまとめる。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	授業は基本的に対面形式で実施し、3回程度メディア授業を取り入れる予定である。授業内容に応じて、グループワークやプレゼンテーションを行う。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション	本演習の目的と概要、スケジュール確認、グループワークの編成、役割分担ゼミ活動の内容、ゼミの進め方について確認する。	□
第2回	身体データの測定方法および測定機器の基礎知識	身体データ測定機器（筋電図計など）の種類、原理、操作方法。環境データ測定機器（騒音計など）の種類、原理、操作方法。データの記録方法を学ぶ。	□
第3回	身体データ測定実習Ⅰ	筋電図測定：基本的な測定方法、データの解釈。グループワーク：測定の精度向上、協力体制の構築	□
第4回	身体データ測定実習Ⅱ	他の身体データ測定機器の体験、比較。グループワーク：測定結果の共有、考察	□
第5回	健康機器の効果検証Ⅰ	各グループで市販の健康機器を用いた効果検証実験。グループワーク：実験計画を立てる。	□
第6回	健康機器の効果検証Ⅱ	各グループで市販の健康機器を用いた効果検証実験。グループワーク：データ分析を行う。	□
第7回	健康機器の効果検証Ⅲ	各グループで市販の健康機器を用いた効果検証実験。グループワーク：結果の考察	□
第8回	合同ゼミに参加	データサイエンスについて学ぶ	□
第9回	中間報告会A、最終報告書Aの作成	各グループから検証実験について報告し、他のグループから質問とアドバイスを受ける。それにより、追加試験やデータの再解析についてグループ内でディスカッションを行う。最終報告書の作成に向けて、追加試験や再分析、報告書の執筆に取り組む。	□
第10回	環境問題と健康Ⅰ	大気汚染、水質汚濁、騒音などの影響について文献研究を行う。グループワーク：環境改善に向けた取り組み	□
第11回	環境問題と健康Ⅱ	各グループで関心のある環境問題の一つを選び測定・調査研究を行う。グループワーク：実験計画を立てる。	□
第12回	環境問題と健康Ⅲ	各グループで関心のある環境問題の一つを選び測定・調査研究を行う。グループワーク：その研究計画に沿って測定機器によるデータの測定や質問紙による調査を実施し、データ分析を行う。	□
第13回	環境問題と健康Ⅳ	各グループで関心のある環境問題の一つを選び測定・調査研究を行う。グループワーク：結果の考察	□
第14回	中間報告会B	各グループから検証実験について報告し、他のグループから質問とアドバイスを受ける。それにより、追加試験やデータの再解析についてグループ内でディスカッションを行う。	□

第15回	最終報告書Bの作成	最終報告書の作成に向けて、追加試験や再分析、報告書の執筆に取り組む。	□
------	-----------	------------------------------------	---

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

授業前に配布資料やインターネットで授業テーマと内容を予習し（2時間程度）、授業後に課題レポートを作成する（2時間程度）

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題レポート・練習問題は翌週フィードバックし、解説とともに解答例を提示し、全体で共有する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2019人間健康DP2	健康データサイエンスの手法を用いて、身体データの測定や環境と健康に問題意識を持ち解決策を探求できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
0%	0%	0%	100%	0%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内課題とレポートを平常点として採点する。授業時間内に出欠を取る（合計15回分）。

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		